「岩舟石の資料館」調査報告

NPO法人大谷石研究会 理事　小林 基澄
（小山工業高等専門学校建築学科 助教）

昨年度の令和6年度、大谷石研究会では小山高専の教員・学生らと共に、栃木県栃木市岩舟町の「岩舟石の資料館」の石造建物の実測やヒヤリング調査を行い、その成果を研究論文としてまとめ、博物館にて講演会を行いました。

岩舟町にそびえる岩船山からは、凝灰岩の一種である岩舟石（いわふねいし）と呼ばれる岩石が産出します。町内には多くの採石関連業者がおり、県内の土木・建築材として使われていましたが、採石場跡はイベントなどに活用されています。なかでも、JR岩舟駅からほど近い場所にある「岩舟石の資料館」は、かつて昭和恐慌の影響で失職する石工への救済事業として、旧川島石材店が昭和6年に建築した建物になります。2階建ての小規模な建物ながら外壁には自社の岩舟石が積まれ、独特な目を引くその外観は、この建物を地元の採石産業に関する資料を保存する資料館として会館した後もほとんど形を変えずに残っています。

敷地内には岩船山採石場へと続く山道や母屋、採石関連施設として石材倉庫と積み出し場跡が残っています。資料館を中心に、これらの建物および敷地について、令和6年10月20日、小山高専の学生・教員と大谷石研究会メンバーなど総勢14名で実測や写真による記録及び館長へのヒヤリングを行いました。

資料館の外観には石材の一つ一つに、付け柱や付け梁、乱積み壁風の仕上げがなされ、石の積み方や部位によって多様な技法が見られます。表面仕上げには筋、磨き、隅取りといった加工が施され、幾何学模様が特徴的な15種類の仕上げ方法がみつかりました。こうした仕上げの多様さは、岩舟石は安山岩質の非常に硬い岩質であることが理由の一つであると考えられます。同じく県内の石と比較すると、砂岩質の徳次郎石、流紋岩質の大谷石を使った建物は立体的な表現が多く柱のオーダーや彫刻的な表現の窓枠、幾何学模様の柱があるのに対し、これらの石より硬い岩舟石はこのような複雑な表現の加工が難しく、そのため表面仕上げの加工方法が増えたのではないでしょうか。

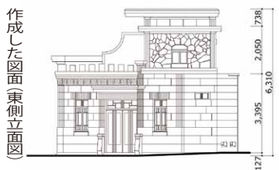
資料館の調査結果は、翌年の1月18日、栃木県立博物館にて、大谷石研究会連続講座第4回講演として「岩舟石の建造物について」と題して発表をしました。講演には、資料館の現館長である加藤千代さんもいらっしゃり、建物についての建築的、文化的な意見交換と知見の共有を、聴講者の皆様と共に行うことができました。栃木県内には大谷石のみならず、多種多様な様々な岩石が産出し、地域で独自の石の文化を形成しています。岩舟石に関する今回の調査を通じても、石材やそれらと身近に接してきた石材業者、また、地域の文化を保存し未来につなげようとする人たちによってその歴史や営みが続いていくことを実感しました。

資料館外観

調査後の記念写真(資料館館長と)

資料館内部を見学中

資料館2階


作成した図面（東側立面図）

作成した図面（断面図）

会員通信 すげーぞ！大谷

「石山の歌」～宇都宮市立城山中央小学校の巻～

NPO法人大谷石研究会 広報担当　佐藤 光弘
（栃木県立博物館）

「石山の歌」は、「石のまち」大谷を象徴する歌です。宇都宮市立城山中央小学校は、この歌がつくられた小学校であるとともに、映画「石山の歌」（昭和30年佐藤武監督作品）の舞台となった小学校でもあります。現在でもこの歌が大切にされ、昨年10月に実施された運動会では、ソーラン節の演技の入場でこの歌が使われました。児童たちの工夫によって、大谷バージョンのソーラン節が披露されました。

「総合的な学習の時間」（チャレンジタイム）では、3年生と4年生で地元大谷（城山）について学ぶ特設の時間があります。3年生では、「城山たんけんたいⅠ～大好き城央小～」「城山たんけんたいⅡ～大好き城山地区～」と称して、地域を探検して調べたことをみんなに伝えあう活動を行っています。新しい発見をして喜ぶ児童たちの姿、児童たちの笑顔のまぶしさが想像されます。また、4年生では、「城山の歴史～城山の歴史めぐり～」「環境を守る～城山発地球へ～」と称して、地域の歴史と環境について考えます。日本遺産のストーリーを肌で感じ取り、地元の文化遺産に誇りを持ってほしいと思います。

多忙な中、ふるさと学習に前向きに取り組んでいこうとする先生方に感謝いたします。児童たちには、「石のまち」大谷の文化を大切にして、未来へ羽ばたいてほしいと思います。小学校の取材に真摯に対応していただいた小川副校長先生・竹下先生、ご協力ありがとうございました。

石山の歌

1 チャッキンコーン　チャッキンコーン　父ちゃん　石おこし
石はかたかんべな　腰がいたかんべな　腰もんでやっかんね

2 チャッキンコーン　チャッキンコーン　母ちゃん　こっぱはき
しょいこ　重かんべな　肩がはったんべ　肩もんでやっかんね

3 チャッキンコーン　チャッキンコーン　小出しあんちゃん
尺角しょってさ　はしごゆっさゆさ　強そうだなーょ

4 チャッキンコーン　チャッキンコーン　おれもいまあに
若衆になったらば　一日三十本も　きってやっかんなよ

大谷石建築写真展「大谷石 未来へ」が那須塩原市図書館みるるで開催されました

NPO法人大谷石研究会 会員　田村 紀夫

写真集「大谷石 未来へ」発刊の関連イベントとして、1月12日から2月28日の長期間に渡り、那須塩原市図書館みるるで写真パネル展が開催されました。この図書館は、JR黒磯駅に隣接し、利便性が良いだけでなく施設のハード・ソフト両面共にとても充実しており、今では県内外の注目を集める魅力的な図書館になっています。かなり人気の施設ということもあり、この企画展を申し込んだ時点ですでに1年半近く先まで展示室の予定が決まっており、それまで待たなければならないという驚きの状況でした。

そしてようやく待ちに待った開催となりました。開催期間が1か月以上あり常駐はさすがにできませんでしたが、図書館スタッフの方のお話によると、来場者の方々は展示の写真パネルや図書館及び研究会が用意した大谷石の関連書籍等を興味深く見ておられる方が多かったとの事でした。黒磯駅周辺には土地柄か、時代を感じさせる石蔵や民家が多く点在しており、この展示を通して改めて身近に慣れ親しんでいる「古き良き建物たち」の文化的価値を再認識していただけたのではないかと勝手に嬉しく思っております。

展示期間中の2月1日には、展示パネルの大谷石建築に関連する興味深いエピソードを交えた解説と共に、栃木県内で産出される凝灰岩について実物見本を手に取ってもらいながら解説を行う講演会が開催されました。大谷石建築についての解説は佐藤理事長に、凝灰岩の解説は塩田顧問にそれぞれお話をしていただきました。講演会の参加者は30名程でしたが、皆さんお二人の解説に熱心に聞き入っておられて、質疑応答の際にはかなり専門的な質問も飛び交い、関心の高さや深さを感じました。特に今回は、実際にそれぞれ別の地域で産出される凝灰岩の見本を手に取って触れてもらい、その建物のイメージをより身近に感じることができるという点で、実物見本の重要性を改めて認識した講演会でもありました。大谷石の持つ何ともいえない温かみのある表情と実際に触った時の優しい感触がこの石の最大級の特徴のひとつであり、評価すべき価値だということにも改めて気づかされました。

また、今回の展示会・講演会で黒磯を訪れて思ったことは、将来的には黒磯周辺での当研究会の活動も視野に入れても良いのではと思うほど歴史を感じる景観と駅周辺の現代的な景観が心地よく混ざりあって、魅力的な活気ある街並みを創り出していると感じたことです。黒磯を含め県北地域での大谷石研究会の幅広い活動の可能性に期待したいと心より思っております。

昔と今が程よく混在する黒磯という地域の人たちのバランス感覚の良さ、環境を含めた文化的価値などを再認識した今回の展示会でした。

大谷石　東西南北

憩いの水辺に温かみを添える

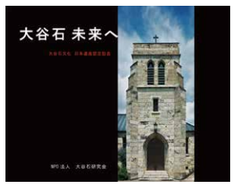
NPO法人 大谷石研究会 広報担当　平沼 隆志

JR 水戸駅から徒歩約 20 分の住宅地に全長約12kmの備前堀がある。元々は江戸時代に農業用水確保や治水のために開削された。1988 ～ 2001 年にかけて水戸市が市民の憩いの水辺空間として整備。中心部の橋と両側の歩道を大谷石で舗装した。大谷石が温かみと和やかさを感じさせるからだ。

ただ、完成から既に四半世紀。石たちは長く雨露にさらされ、無数の人に踏まれ続けた。今となってはすり減って荒れた路面が時の長さを映し出している。

「屏風岩石蔵」　（50・51頁掲載）
屏風岩石材石蔵は、渡辺家の屋敷正面の冠木門の左右に対峙している

写真集「大谷石 未来へ」
NPO法人 大谷石研究会
2,500円（税込） 113頁



写真集の購入をご希望の方
写真集の購入を希望の方は、ホームページのお問い合わせよりメールでご連絡をお願いいたします。